

平成 29 年度ユネスコスクール年次報告書

1. 学校概要

学校名 石川県金沢市立栗崎小学校 (※正式名称を記載)

種 別 ☐ 保育園・幼稚園 ☒ 小学校 ☐ 小中一貫^{※注 1}

☐ 中学校 ☐ 中高一貫^{※注 2} ☐ 高等学校

☐ 教員養成大学 ☐ 専修学校、各種学校

☐ 特別支援学校

☐ その他 (例: 小中高一貫)

※注 1 義務教育学校を含む ※注 2 中等教育学校を含む

所在地 〒920-0226

石川県金沢市栗崎町へ78番地

E-mail awagasaki-e@kanazawa-city.ed.jp

Website p://cms.kanazawa-city.ed.jp/awagasaki-e/

幼児児童生徒数 男子 229 名 女子 202 名 合計 431 名

幼児・児童・生徒の年齢 6 歳 ~ 12 歳

2. 報告期間

平成 29 年 4 月 ~ 平成 30 年 3 月

※報告書提出時点 ~ 平成 30 年 3 月末までの活動は、予定 (見込み) として記載ください。

3. 活動内容

※記入にあたっては、末尾の留意事項も確認ください。

(1) 活動の概要

※チェック事項 1-1、2-1 に対応

1 年生 < 栗崎となかよし >

1 年生は、< 栗崎となかよし > をテーマに、生活科単元 < むかしあそびをしよう > を中心に学習を進めた。木ごまやけん玉などの道具を使って昔遊びを体験し、もっと上手になるために、地域の名人さんに教えてもらう機会をもった。地域の名人さんとの交流で、さらに学習意欲が高まり、その後の「年長さんをむかえる会」では、年長さんに分かりやすく昔遊びを教えることをめあてに取り組んだ。ESD 発表会では、協力してくださった昔遊びの名人さんや保護者に向けて、遊び方や上手にするコツを紹介し、上達した昔遊びの技を披露することができた。グループの友達と協力する力、名人さんとの交流を通してコミュニケーションを行う力が付いた。



2 年生 < 栗崎をたんけん >

2 年生は、< 栗崎をたんけん > をテーマに、地域探検として、社会福祉施設を訪問し、お年寄りと交流した。お年寄りに喜んでもらえるように友達と協力してアイディアを出し合い、メッセージカードを準備し、合奏や劇で楽しんでもらおうと企画・練習した。当日は、練習の成果を生かし楽しく交流できた。また、地域



の「栗崎郵便局」の見学では、事前に書いたはがきをポストに入れ、ポストの中を見せていただき、郵便物の届くしくみや安全の工夫を教えていただくなど、地域の中での郵便局のはたらきを実感することができた。ESD発表会では、「社会福祉施設訪問」「郵便局見学」の様子をグループごとに協力して発表方法を考え、栗崎探検で学んだことや感じたことを、写真やボード、絵や実演などで発表することができた。

3年生 <栗崎の自慢を見つけよう>

本校では、全校児童が地域の特産である「五郎島金時」を栽培している。3年生は、栗崎の自慢としての「五郎島金時」について生産者さんとの交流を通して、サツマイモ作りに対する思いや願いを知ることができ、地域への理解を深めることができた。また、昔から伝えられている行事（獅子舞・奴行列）については、金沢ふるさと学習で、地域の獅子舞・奴行列保存会の方に来ていただき実演してもらった。実際に間近に獅子舞・奴行列にふれることで、栗崎の伝統を実感していた。ESD発表会では、テーマごとに友達と協力し、「五郎島金時」や「獅子舞・奴行列」について、学習を通して分かったことや深まったことを模造紙にまとめ、保護者に発信することができた。



4年生 <だれもが住みよい町づくり>

4年生は、〈だれもが住みよい町づくり〉をテーマに、バリアフリーの学習に取り組んだ。点字学習器・アイマスク・車椅子・お年寄り体験用の器具等を使って、様々な立場を体験し、自分たちの町は体の不自由な人やお年寄りにとって住みよい町かを調べる学習に取り組んだ。その際、2年生の時に交流している社会福祉施設へも見学に行った。バリアフリーやお年寄りにとって生活しやすい施設になっているかどうか、2年時とは違った視点で学びを深めることができた。また、聴覚に障害のある方をお迎えし、生活の上での苦労や工夫について話を聞いた。様々な人と交流し、「コミュニケーションを行う力」を付けることができた。ESD発表会では、学んだ内容や自分たちの考えを壁新聞にまとめ、保護者を対象に発信した。



5年生 <砂とともに生きる町、栗崎>

5年生は、地域の「JA栗五青壮年部」の協力を得ながら、春から夏にかけて、小玉スイカの栽培に取り組んだ。児童は、当番を決めて水やりをし、定期的に雑草を抜いたり、観察記録をつけたりした。順調に生育し、収穫の際、自分たちが育てたスイカの糖度が、出荷の基準を満たすほど甘く育っていたことが分かり、子どもたちは、とても満足げであった。その後、加賀野菜へと学習を広げ、加賀野菜の特徴や歴史・調理の仕方などについて調べた。また、加賀野菜のひとつである「源助大根」の栽培も秋から冬に行い、収穫することができた。ESD発表会では、加賀野菜について学んだことを4年生に発信することができた。



6年生 <人とのつながりの中で生きる>

6年生は、〈人とのつながりの中で生きる〉をテーマに、6年間の総まとめとして、地域である栗崎から離れ、より発展的に広い範囲に目を向け、金沢について理解を深める学習を行った。5月から7月は、「金沢百万石祭り」について調べた。実際に祭り



を見た児童の感想を聞いたり、資料やインターネットで調べたりして、各自がパンフレットにまとめる活動をした。これが金沢の伝統ある祭りであり、これからも続いてほしいという思いをもった児童が多かった。2学期からは「金沢のよさを発信しよう」というテーマで、金沢の名所や伝統、偉人についての追究が始まった。10月には、実際に、金沢城や兼六園など金沢の歴史を感じられる場所や伝統産業工芸館などの見学をした。金沢には、これからも守っていくべきものや、伝統がまだまだあるということを見学は実感することができた。

※チェック事項1-2, 2-1に対応

(2) 活動の詳細

①活動内容

ア. 活動分野（複数選択可）

<input type="checkbox"/> 1. 環境	<input type="checkbox"/> 2. エネルギー	<input type="checkbox"/> 3. 防災	<input type="checkbox"/> 4. 生物多様性
<input type="checkbox"/> 5. 気候変動	<input type="checkbox"/> 6. 国際理解、文化多様性	<input checked="" type="checkbox"/> 7. 地域の伝統文化、文化遺産	<input type="checkbox"/> 8. 人権・平和
<input type="checkbox"/> 9. 健康・福祉	<input checked="" type="checkbox"/> 10. 食育	<input type="checkbox"/> 11. 持続可能な生産と消費	<input type="checkbox"/> 12. 貧困
<input type="checkbox"/> 13. エコパーク	<input type="checkbox"/> 14. ジオパーク	<input type="checkbox"/> 15. グローバルシチズンシップ教育 (GCED)	
<input type="checkbox"/> 16. ジェンダー平等	<input type="checkbox"/> 17. その他()		

イ. 活動を通して育みたい資質や能力（複数選択可）

<input type="checkbox"/> 1. 批判的に考える力	<input type="checkbox"/> 2. 未来像を予測して計画を立てる力
<input type="checkbox"/> 3. 多面的、総合的に考える力	<input checked="" type="checkbox"/> 4. コミュニケーションを行う力
<input checked="" type="checkbox"/> 5. 他者と協力する態度	<input type="checkbox"/> 6. つながりを尊重する態度
<input type="checkbox"/> 7. 進んで参加する態度	
<input type="checkbox"/> 8. その他(自由記入)	

ウ. 活動時間（複数選択可）

<input checked="" type="checkbox"/> 1. 教科の時間	<input checked="" type="checkbox"/> 2. 総合的な学習の時間
<input type="checkbox"/> 3. 特別活動等	<input type="checkbox"/> 4. クラブ活動
<input type="checkbox"/> 5. その他(自由記述)	

エ. 使用した教材（書籍、ウェブサイト、パンフレットなど具体名）

「いいね、金沢」 <http://www4.city.kanazawa.lg.jp/>

②ユネスコスクールとしての活動を各校の教育課程（指導計画）にどのように位置付けているか。指導内容を適切に定め、指導方法の工夫改善に努めているか。

金沢市で行っている「金沢ふるさと学習」では、金沢のもつ伝統や文化、自然、歴史などのさまざまな素材を扱い、金沢について学び、かかわり、広めることを通して、金沢の町に愛着と誇りをもち、まちづくりの担い手を育むことを目標としている。

そこで、「金沢ふるさと学習」を生かし、生活科や総合的な学習の時間において、地域の伝統文化、文化遺産にふれることで、ユネスコスクールの活動の一環として学んでいる。発達段階に応じて学年間で系統的に学べるよう指導を工夫している。

③学校全体で組織的かつ継続的に活動に取り組める体制や環境をつくるため、どのような取組を行っているか。 ※チェック事項 1-4 に対応

各学年のテーマを定めて取り組み、それらの学習成果を保護者や地域の方や他の学年に発信する「ESD 発表会」を1年間に1度行っている。

上の学年の取組を知ることで、次年度、自分たちが学習していくテーマを確認したり、学習してみたいテーマを確認したりすることができる。

また、地域の人材をゲストティーチャーとして招くことで、地域を巻き込んだ継続的な取組になっている。

④ユネスコスクールとしての活動の質の向上のための学校活動の評価（内部/外部）の方法・具体的内容と、それによって明らかになった成果と課題。

※チェック事項 1-5 に対応

「ESD 発表会」において、保護者やゲストティーチャーとして招いた講師の方から、アンケートで学習内容や課題を評価してもらっている。

成果としては、友達とかかわりながら、調べ、まとめ、発表するという一連の学習の流れが子どもたちに身に付いてきている。また地域素材をテーマにした学習を積み重ねてきたことで、地域への理解と愛着が深まり、地域の方と学校との連携が深まった。

他校の取組も児童が知ることで、さらなる意欲付けを行うことが課題である。

⑤ESD の推進拠点としての活動成果の発信方法・内容と、発信により得られた効果。 ※チェック事項 2-2 に対応

「金沢ふるさと学習作品展」で4年生の活動成果を壁新聞にして、発信することができた。他者と協力して壁新聞を作り、成果物の壁新聞がふるさと偉人館で展示されることで、本校の取組を他校の児童や博物館利用者に知ってもらうことができた。

⑥学校以外の団体との協働・交流・ネットワーク形成（地域コミュニティ、大学、ESD活動支援センター、ESDコンソーシアムとの連携など）

※チェック事項 2-3 に対応

1年生の生活科＜粟崎となかよし＞では、昔遊びを教えてもらうため、地域のお年寄りに名人さんとしてゲストティーチャーで来てもらった。ここ数年、毎年恒例の行事となり、地域のお年寄りの方も意欲的に学校教育にかかわってくれるようになった。

⑦国内外のユネスコスクールとの交流・ネットワーク形成（200字程度）

※チェック事項 2-4 に対応

「ふるさと学習作品展」では、金沢市内の小学校と壁新聞などの成果物を通して、市全体で交流している。

また、「ユネスコ子どもサミット」では、市内の各学校の代表者2名がそれぞれの学校の取組を示した壁新聞やレジュメなどを持ち寄り、取組を交流している。しかし、今年度は、大雪のため中止になり、市図書館にて、壁新聞の交流のみ行った。

⑧ユネスコスクールの活動による効果について、特筆すべき（特に強調したい）内容（例えば児童生徒、教員、カリキュラム・教授法、学校経営、地域・保護者との関係など様々な面でのポジティブな変化）（200字程度）

※チェック事項 2-5 に対応

地域の方をゲストティーチャーとして招くことで、地域と協働して教育活動に取り組むことができる。

また、ESD 発表会で地域の方や保護者へ向けて学習内容を発信することで、子どもたちの学びによる変化や成長を地域の方や保護者も楽しみにしている。

(3) 平成30年度の活動計画(200～400字程度)

平成29年度の取組を軸に、今年度明らかになった課題を生かして取り組む。

1～2年生は生活科を中心に行う。

「1年 栗崎となかよし」

「2年 栗崎をたんけん」

3～6年生は、総合的な学習の時間を中心に行う。

「3年 栗崎・世界の文化」

「4年 共に生きる町」

「5年 おもてなしの心から学ぶ」

「6年 本物から学ぶ」

また、2020年の東京オリンピックへ向けて、国際的な視野をもって世界平和に貢献できる人材の育成を図るため、以下のように「栗崎小オリンピック・パラリンピック教育」に新たに取り組むことを計画している。

「1年 スポーツに対する興味・関心向上、楽しむ心の育成」

「2・5年 マナーとおもてなしの心」

「3年 日本の伝統。郷土の文化や世界の文化理解・多様性」

「4年 スポーツを通じた共生社会の構築」

「6年 オリパラの意義や歴史」

特に、5、6年では「栗崎小オリンピック・パラリンピック教育」を年間教育課程に位置付け、機運醸成を図る。持続可能な社会のあり方、その中で自らどうかわっていくかを考えていく学習活動、学習の視点を取り入れる。